

# 高専の海外インターンシップ

国立高等専門学校機構本部事務局・教育研究調査室長 市坪 誠

今年、第一期中期計画（五年間）が終了し、第二期がスタートした高専（KOSEN）。

昨年度の中教審答申や独法改革法の後押しを得て、高専はより魅力的に発展することとなります。

より質の高い教育を目指すために、昨年度までの高専教育のあり方を振り返ることも求められ、ここでは高専のインターンシップ、特に海外インターンシップにおける先駆的な取組を取り上げたいと思います。

## 高専の魅力・インターンシップ

国立高専五五校は、すべての教育課程にインターンシップを取り入れており（実施率一〇〇％）、平成十九年度において、商船学科を除く本科四年生（十九歳・大学一年次に相当）のうち六九二九人（七〇・八％）がインターンシップに参加しています。

十六歳から専門教育を受ける高専生にとって、在学中、企業等において自らの専攻や将来希望する職業に関連した就業体験を行うインターンシップは、専門知識や実務能力、コ

ミュニケーション力の向上（職業教育）となるだけでなく、自らのビジョン・将来の職業選択を考える契機、学習意欲の向上（キャリア教育）の場であり、高専が高専たる魅力を発揮する一翼を担っているといえます。

## 発展する高専・共同教育

各国立高専では、地域社会や同窓生、退職技術者の協力を得て、実践的・創造的な教育を展開するプログラムも数多く開発しており、国立高専機構はこれらのプログラムをインターンシップや企業からの講師派遣とともに「共同教育」と総称して推進しています。

求人倍率（平成十九年度）が高専本科二四・六倍、高専専攻科四一・一倍ということも、真に「実践的・創造的技術者」を育成したいという、高専と産業界との連携の産物といえます。

## 前進する高専・海外インターンシップ

国立高専は、従前より海外研修派遣、海外

インターンシップを実施しており、平成十九年度の海外研修派遣者数は、一六五二人（本科生・一五七五人、高専専攻科生・七七人）であり、このうちの二一人（本科生・九人、高専専攻科生・二一人）が海外インターンシップを実施しています。

平成二十年度に海外インターンシップを実施した高専生は、七〇人（本科生・三九人、高専専攻科生・三一人）と増加傾向にあり、「国際的な展開」、「国際的に活躍できる技術者の養成」を標榜する高専として、その基礎づくりがなされていると思われれます。

## 進化する高専・コーオプ教育

平成二十年度、国立高専機構は、国際的に活躍できる能力を持つ実践的な技術者の養成を行うことおよびそのための共同教育の促進を図ることを目的として、国立高専の学生および機構の教職員が企業の海外事業所等において就業体験を行う「海外インターンシッププログラム」を、新たに計画しこれを実施しました。

国立高専機構主催・海外インターンシッププログラム

(学生)						
学校名	学年	国名	インターンシップ先機関名	インターンシップ期間	人数	総計
茨城	本科5年 (専攻科進学予定)	シンガポール	三井化学(株)	H21.3.8~H21.3.28	1	11人
新居浜	専攻科1年				1	
北九州	専攻科1年				1	
釧路	専攻科1年				1	
群馬	専攻科1年	フィリピン	ツネイシホールディングス(株)	H21.3.8~H21.3.28	1	
宇部	専攻科1年				1	
高松	専攻科1年				1	
函館	専攻科1年				1	
旭川	専攻科1年	マレーシア	東洋エン지니어リング(株)	H21.3.9~H21.3.28	1	
木更津	専攻科1年				1	
長野	専攻科1年				1	

(教員)						
学校名	学科	国名	インターンシップ先機関名	インターンシップ期間	人数	総計
苫小牧	物質工学科	シンガポール	三井化学(株)	H21.3.8~H21.3.28	1	3人
新居浜	生物応用化学科	フィリピン	ツネイシホールディングス(株)		1	
舞鶴	機械工学科	マレーシア	東洋エン지니어リング(株)	H21.3.9~H21.3.28	1	

一つの学校組織(高専)によらない連合教員チームとして高度の英語コミュニケーション・人間力教育を目指したことを、事前研修から現地研修に至るまで教授陣がすべての教育に責任を持つ緻密な教育プログラムを

このプログラムは、三好章一教授(茨城高専)をリーダーとする教員チーム(複数高専にまたがる教員組織)が協力企業(三井物産、三井化学、東洋エン지니어リング、ツネイシホールディングス)と連携し、協力企業の海外事業所等(シンガポール、マレーシア、フィリピン)に、学生一人、教員三人を三週間派遣するものです(表)。

その対象学生は、インターンシップを既に体験した学生(つまり、専攻科生)とすることで、教室での学習とインターンシップとを一定期間ずつ繰り返す「コーオペレーション」教育を実践することに、本プログラムの大きな特徴があります。

また、引率教員にも学生と同等以上の就業体験を課したこと、これを教育する教授陣は

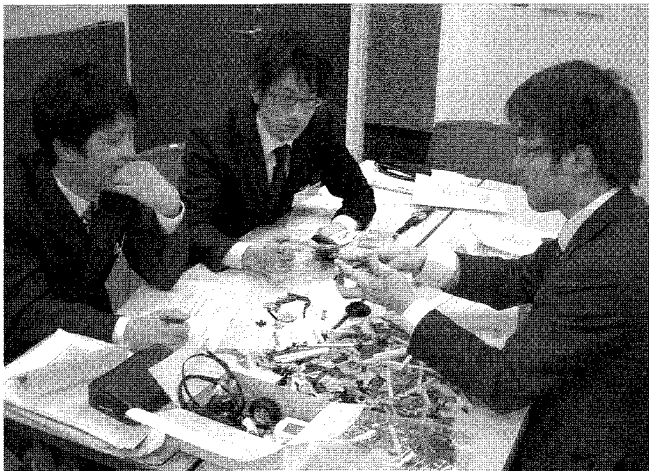


写真1 事前研修における英語コミュニケーション演習  
—ブロックの組み立てを英語で指示する学生—

立案したことなど(写真1、2)、国際的に活躍できる技術者養成の先駆的な教育プログラムとなっています。

学生と教員に対する教育効果として、研修学生・教員の自己評価と企業からの評価から、「TOEICで良い成績をとっていたが、会話が不足していることがわかった」、「英語を使うことへの自信が得られた」、「エン지니어リングの必須事項である Interdisciplinary cooperation (分野間協力) について学んだことにより、他学科との交流が重要で今後は積極的に実施していきたい」、「専門分野の異なる研修を受けたおかげで、視野が大きく広がった」など、英語の修得に限らず、国際感覚の養成、職業観や勤労観の涵養など多岐かつ多大な成果を得たことを把握しています(誌面の都合上、教育効果の分析に係る詳細



写真2 研修先での外国人スタッフとの打ち合わせ

は他誌で報告いたします)。

### 高専の高度化に向けて

科学技術の高度化や学生のニーズの多様化などを踏まえ、専攻科の拡充、産学連携の強化、学校間の再編・連携など、教育の一層の充実(高度化)を図っているのが、「高専(KOSEN)」なのです。

高専英語教育の高度化もまた、多様な実践的・創造的技術者の育成のために必要不可欠といえます。

海外研修や海外インターンシップといった、産業界や他の教育機関、地域との有機的連携による共同教育やコーオペ教育を展開することで、高専教育は今後も社会的ニーズに即応していききたいと思えます。